

年末例会報告

2014年12月23日(火) 午後2時から4時30分

しげい病院のかわせみホールで行いました。例会の後、懇親会もありました。



発表題名 「2014 虫アルバムから」発表者 青野孝昭

「2014 虫アルバムからーヤブガラシに集う虫たちなど」と題してパワーポイントに 2014 年の春から秋にかけて野外で撮影した昆虫の中、32 種を収めて報告しました。メインのヤブガラシ訪花昆虫は倉敷市酒津にある濟興寺の墓地に自生していた群落に通って撮影した 48 種のうちの 16 種を紹介しました。中でも多かったのがハチ類で、アシナガバチ類は 6 種が訪花、吸蜜していました。最も印象的だったのはスギハラクモバチで倉敷市未記録種でした。古木樹洞内の腐朽材か朽ちた切り株などがないと巣作りができない種で、付近に長らく手つかずの森があることをうかがわせていました。その他、高梁川中流域のカワラバタ、草間のヒロオビミドリシジミ、鳥取砂丘のカワラハンミョウなどの生態写真も紹介しました。岡山県未記録と思われるサルゾウムシ 2 種については標本写真を公表しました。



発表題名 「2014年の活動報告」 発表者 末宗安之

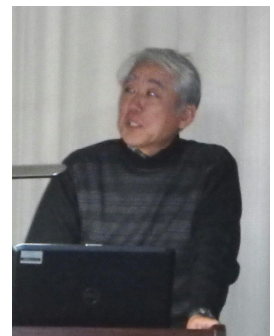
今回はニホンミツバチとクロウスタビガの幼虫飼育の報告をさせていただきます。まず、我が家で飼育しているニホンミツバチについての報告です。2013年の5月に待ち箱に入居したニホンミツバチの分封群が1年後の14年4月に分封（巣別れ）をしたので、手作りの巣枠を加えた重箱式巣箱での巣の成長とハチミツ採集の方法を画像で紹介させていただきました。巣枠に貯蓄されたハチミツの部分を切り抜き、小型脱水機で巣から分離した後、バケツ、ザル、布でさらに漉して精製しました。現在も群は元気に越冬中です。後半はクロウスタビガの飼育報告です。以前からぜひ一度飼育してみたかった蛾で、運良くインターネットオークションで卵が入手出来たので食樹のキハダ苗も購入し、春の孵化とともに成長していく幼虫の画像を紹介しました。ウスタビガより淡色で突起も少ない終齢幼虫になり、最後はウスタビガの繭「山かます」とはかなり印象の違う褐色の繭の中で蛹化。そして10月中旬に成虫になりました。野外でなかなか出会えない蛾ですが、機会があれば地元で成虫を発見、飼育までやってみたいです。



発表題名 「パピリオの幼虫など、今年撮影したチョウから」

発表者 中村具見

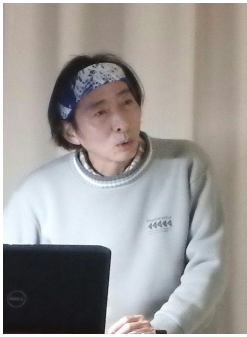
フユザンショウで産卵行動を示すクロアゲハ♀を見つけたのを契機に、これまであまり調べたことがなかったフユザンショウ、カラスザンショウ、キハダ等のミカン科野生種を食樹とするパピリオの調査を行い、クロアゲハ・モンキアゲハ・オナガアゲハ・カラスアゲハ・ミヤマカラスアゲハ・アゲハの6種の幼虫を確認できました。また、食樹もしくはその周辺の調査により、少ないながらクロアゲハ・モンキアゲハ・ミヤマカラスアゲハの越冬蛹なども発見できました。



このほか、デジタルカメラに替えて初めての撮影となったミスジチョウ、ウラナミジャノメ、アイノミドリシジミをはじめ県内に生息する各種ゼフィルス、スミナガシ、毎年観察しているヤマキマダラヒカゲ・サトキマダラヒカゲが混生地で一緒に樹液を吸うシーンなどを紹介しました。

発表題名 「飛び蛾の世界」 発表者 藤本徹哉

蝶とは違い、われわれは、蛾の飛ぶ姿をあまりちゃんと見てはいません。見ていない、というよりは、見るができない、といったほうが正確でしょう。明りに集まってばさばさ飛んでいるのは彼らの本来の姿ではありません。真っ暗な林内を自在に飛ぶキリガたち。夜空を背景にゼフィルスのように梢上を舞うエダシャク。アゲハチョウのように林縁に沿



って飛ぶカトカラ。彼らを撮ろう、と思い立って数年が経ちました。いろいろな試みの結果、最近ようやく、自然状態に近い彼らの飛翔をときたまですが捉えることができるようになりました。道はまだまだ遠いのですが、蝶に比べて全く手つかずとってよい蛾の成虫の行動への興味を持っていただければと思い、拙い写真を紹介させていただきました。

発表題名 「岡山県に於けるベニモンカラスシジミの生息地と食樹に関する最近の知見」 発表者 三宅誠治



本種は、岡山県西部を流れる高梁川流域の蝶を語る上では、欠くことの出来ない存在です。また、その棲息地も多く存在することは既知のことですが、その一方で環境省をはじめ幾つかの機関が纏めたレッドデータでは判定がまちまちでした。そこで、私は岡山県での棲息地の状況を調べ、自分なりに生存の危機にあるものなのかどうかを把握しようと考え、2010年から調査を行いました。その結果、これまで発表された記録から場所を特定出来た棲息地 47 か所の内 46 か所で棲息を再確認し、それに加え新たに 56 か所の棲息地を見つけることが出来ました。このことから、岡山県では本種は安定した棲息状況にあると言えます。また、本種の植樹であるクロウメモドキ、タイシャククロウメモドキ、キビノクロウメモドキについても自生状況やその見分け方も纏めました。

発表題名 「ベニイトトンボはどこから来たのか」 発表者 守安敦

ベニイトトンボが、昨年の玉野市に引き続いて、倉敷市の2か所の池で発見された。玉野市の池からは、10km以上離れており、別ルートの可能性が高い。何らかの形で外部から持ち込まれた可能性が高い。このことについて「すずむし」で報告予定である。今後も生態を調査していきたい。

< 1年間をふり返って >

「2014年はもっぱら備前市の八塔寺周辺での採集でした。高梁川流域などと比べるとポイントの掴みにくい場所ですが、何日も同じ場所に行っているとだんだん見えてきたものがあります。結果は今度のすずむしに報告する予定です。一番変わっている点は、鹿が多く、その分フン虫が面白いのですがマダニも多く、草の上に点々と止まっているのを見えています。採集に行くときは服装に注意が必要です。」(山地 治)

「ここ数年、興味をもっている成虫越冬するカミキリムシ、タテジマカミキリの越冬状況を岡山市中区近郊の龍ノ口山を中心に調べた。1～2月に計4頭確認し、これらはいずれも4月下旬に次々と冬眠から覚め、いなくなった。また、8月にクマゼミが自宅のベンチの板に産卵しているのを見つけ、産卵の様子をビデオに収めることができたのも興味深かった。」(大森 斉)

「12月の初めに、加藤学さんのご協力ですべてオオスズメバチの巣を掘りに行きました。最近、虫に触る機会が減って刺激がほしいと思っていましたが、徐々に刺激的な体験をさせていただきました。ハチは少なく、巣はきれいな状態で採ることができたので、そのうちお披露目できると思います。」(奥島雄一)

「トビケラに興味があり、最近の数年間、岡山の各地に採集に行っています。昼間に川沿いを歩きながら採集したり、夜に自動販売機や街灯めぐりなどをしています。今年の成果としては、イトウホソバトビケラの採集があります。県北の湿地に生息するようで、2地点で採集できました。来年はこれまであまり調査出来ていない溜池で採集しようと思っています。」(野嶋宏一)

「2014年で最も大きい収穫は、8月30日に、倉敷市初のベニイトトンボを発見したことです。発表では、「ベニイトトンボがどこから来たのか」ということを考えてみました。「すずむし」にもまとめて発表しますが、2015年には、生態を調査してみたいと思っています。」(守安敦)

「採集はせず、もっぱら撮ることに徹し、生態観察中心に情報集めを行いました。特に、ヤブガラシの花に吸蜜にくる昆虫を連日のように出掛け、48種を写していました。岡山県未記録と思われる種ではクロオビハラトハナアブを写していました。希少な種ではスギハラクモバチが、県南未記録種ではヒゲナガハナアブなどが倉敷市にもいることなどを確認しました。」(青野孝昭)

「2014年は昆虫採集に行く時間がなく、我が家の庭を中心に採集、秋になるとカンタン、カネタタキ等が疲れた気持ちを癒してくれました。食草を食べつくした幼虫やさなぎを探しまわったりして、1年が終わりました。2015年は外での採集を楽しみたい。」(澤田愛子)

「私と昆虫館の関わりは1986年からになりますが、縁あって一昨年(2013年)の11月から新装となった昆虫館へ週1日勤めることになり、落成式を経て平成25年12月より正式に辞令を受け、現在に至っております。故重井博先生の御意志を継いだ同好会有志の皆様方の御支援の賜物である全国的にも、珍しい病院内にあるこの昆虫館を守っていくべく、岡本館長の基、努力していきたいと思っております。」(澤田博仁)

「今年は、岡山県南部で採集をしました。クロカタビロオサムシなども昨年と同様に龍ノ口山などではたくさん発生しているのを見ることができました。また、イソジョウカイモドキなど小型の甲虫を中心にいろいろ採集できました。FITによる採集もいろいろやってみてみたいと思います。」(武田寛生)

「今年は、主に岡山市の龍ノ口山で採集をしました。オオヒラタエンマムシやアオカナブンなど採集できました。これからは、衝突板トラップなどをやりたいと思います。」(武田雅生)

(参加者名) 末宗安之 武田雅生 武田寛生 植松蒼 千田喜博 澤田博仁 澤田愛子
青野孝昭 野島宏一 織田明文 中村具見 三宅誠治 藤本徹哉 川上義弘 津田和宏
山地治 岡本忠 大森斉 加藤学 奥島雄一 守安敦 以上21名

倉敷市立自然史博物館の催しもの案内

◎自然観察会「春の砂川公園」

鬼ノ城の麓に位置する緑豊かな砂川公園で昆虫、植物、動物、岩石などを観察します。

◆日時：2015年4月26日(日) 12時30分～15時(受付12時～12時30分)

◆集合場所：総社市黒尾 砂川公園第2駐車場

◆講師：自然史博物館学芸員・友の会幹事

◆持参品：筆記用具、観察・採集用具、弁当、水筒、雨具、救急用品など

◆交通案内(大人片道320円)

倉敷駅 JR伯備線 総社駅 JR吉備線 服部駅

行き： 9時36分 → 9時47分 9時56分 → 10時5分

帰り： 16時35分 ← 16時24分 16時00分 ← 15時50分

※ダイヤ改正の可能性がありますので、事前に最新の情報をご確認ください。

服部駅から北方へ砂川公園を目指してお越しください。服部駅から集合場所まで約2.3kmあります。自家用車で倉敷IC方面からお越しの方は、国道429号を北に進み、国道180号を横切ってさらに北に進み、あとは「鬼ノ城」、「砂川公園」の案内に従ってください。集合場所に駐車できます。

◆申込み：前日までに電話・ファックス・ハガキなどで博物館友の会事務局まで。

TEL：086-425-6037 FAX：086-425-6038 電子申請も利用できます。

<http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/musnat/event.htm>

◆備考：小学生以下の方は保護者同伴でご参加ください。雨天決行。ただし警報発令時には中止。天候があやしい場合は当日8時以降に友の会の携帯電話(090-8242-3896)までにお問い合わせください。現地にトイレはあります。今回の観察コースでは、昆虫採集はできますが、植物採集は出来ません。

◎こどもの日は無料開放日

自然史博物館では5月5日（こどもの日）と11月3日（文化の日・当館の開館記念日）を終日入館無料としています。お誘い合わせのうえご来館ください。

◆日時：2015年5月5日（火・祝）9時～17時15分

◎むしむし探検隊27年度隊員募集

オリエンテーション→野外探検（昆虫調査）→標本整理→雑誌への投稿，博物館での展示・発表などの一連の体験を通して，昆虫に関する専門知識と技術を学びます。昆虫の専門家を目指す人向きのプログラムです。

◆応募資格：原則として以下の条件をすべて満たしていること。小学5年～高校3年生。昆虫に強い興味がある。原則として年間予定のすべてに参加できる。集合場所（原則として自然史博物館かJR倉敷駅）まで自力で来られるか，保護者の送迎がある。参加費（保険料400円＋交通費）を自己負担できる。長時間の野外調査が可能な体力があり，行動に自己責任を持てる。

◆申込み：2015年5月9日（土）までに電話・電子申請（<http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/musnat/event.htm>）などで博物館まで。

◆募集人数：10名程度

◆入隊説明会・オリエンテーション：

日時：2015年5月10日（日），14～16時（説明会終了後オリエンテーション）

場所：自然史博物館地階講義室

持参品：保険料400円（隊員になった方のみ集金，野外活動2回分），筆記用具

◆年間予定：

5月10日（日） 入隊説明会・オリエンテーション

6月7日（日） 第1回探検（笠岡市北木島で昆虫採集）

7月19日（日） 第2回探検（津山市で昆虫採集）

7～9月 博物館で1日ボランティア活動

10月ころ 「しぜんしくらしき賞」作品応募

11月3日（火・祝） 「自然史博物館まつり」で昆虫コーナー開設

12月20日（日）まで 「しぜんしくらしき」原稿提出

3月20日（日・祝） 研究発表会

◆備考：途中でキャンセルされても保険料は返金できません。「探検」に保護者は同伴しません。数名の指導者（隊長・副隊長）が同行します。友の会と共催です。特に初めて参加をお考えの場合は，できるだけ保護者の方も入隊説明会へご参加ください。副隊長（大学生以上）も募集しています。不明な点は自然史博物館の奥島までお問い合わせください。

■「倉敷まちかど博物館」設置施設募集中！

倉敷市立自然史博物館では、市民・観光客の自然や環境への興味を高めると同時に、街全体の活性化を目指す目的で「倉敷まちかど博物館」の貸し出しを行っています。当館が所蔵する岩石・鉱物・化石・植物・昆虫・動物などの本物の標本を活用した60台の展示ユニットを公共施設、学校、幼稚園、保育園、観光施設、宿泊施設、商店、病院など、公共性の高い施設または市民や観光客らが集う施設を対象として無料で貸し出して展示していただきます。市外のご利用も可能になりました。「倉敷まちかど博物館」のご利用、展示内容、展示場所など詳細は博物館ホームページをご覧ください。自然史博物館までお問い合わせください。

■昆虫・動物分野ボランティアスタッフ募集

自然史博物館の昆虫・動物分野のボランティアスタッフを募集しています。昆虫および動物（とくにせきつい動物）標本の作製・同定・整理・修復・研究、展示解説・案内、普及活動（講座・観察会補助）などの中からできることをできる範囲で博物館スタッフと相談しながら活動していただけます。来館にはボランティア用無料駐車場がご利用になれます。興味のある方は活動内容等について相談させていただきますので、メールまたは電話で奥島までご連絡ください。

お問い合わせ先：倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1

PHONE 086-425-6037 FAX 086-425-6038

E-MAIL musnat@city.kurashiki.okayama.jp

（奥島雄一 倉敷市立自然史博物館）

[交換文献] (2014. 11. 13~2015. 4. 2受付分)

| | |
|--|-----------------|
| 山口のむし (14) | 山口むしの会 |
| ちょうしゅう便り (27),(28) | 〃 |
| Nature Study 60(11),(12),61(1),(2),(3),(4) | 大阪市立自然史博物館友の会 |
| Mushi Mezuru (41) | 鈴木 裕 |
| 大阪市立自然史博物館報 (39) | 大阪市立自然史博物館 |
| 大阪市立自然史博物館研究報告 (68) | 〃 |
| 大阪市立自然史博物館 自然史研究 3(15) | 〃 |
| 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 (46集) 所蔵甲虫 (31) | 〃 |
| 誘蛾灯 (218),(219) | 誘蛾会 |
| KORASANA (82),(83) | 久留米昆虫同好会 |
| 久留米虫だより (222),(223),(224) | 久留米昆虫同好会 |
| へりぐる (36) | 瀬戸内虫の会 |
| すかしば (62) | 山陰むしの会 |
| いもむしだより (115) | 〃 |
| ゆらぎあ (32) | 鳥取昆虫同好会 |
| 蛾類通信 (272) | 日本蛾類学会 |
| TINEA 23(2) | 日本蛾類学会 |
| みちしるべ (50),(51) | 岡山昆虫談話会 |
| 駿河の昆虫 (247),(248) | 静岡昆虫同好会 |
| ちゃつきりむし (181),(182) | 〃 |
| AMICA通信 (23) | 富山県昆虫同好会 |
| 神奈川自然史資料 (36) | 神奈川県立生命の星・地球博物館 |
| 庄原市立比和自然科学博物館研究報告 (56) | 庄原市立比和自然科学博物館 |
| 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告 (14) | 〃 |
| とっくりばち (82) | 石川むしの会 |
| インセクト 65(2) | とちぎ昆虫愛好会 |
| 比婆科学 (252) | 比婆科学教育振興会 |
| 月刊 むし (527) January 2015 | むし社 |
| 日本昆虫協会ニュース (68・69) | 日本昆虫協会 |

[寄贈文献] (2014. 11. 13~2015. 4. 2受付分)

| | |
|----------------|------------|
| 都市の自然 特別展解説書 | 大阪市立自然史博物館 |
| 長居植物園 植物観察ネタ帖 | 大阪市立自然史博物館 |
| トリケラトプス 特別展解説書 | 大阪市立自然史博物館 |

<倉敷昆虫同好会 連絡先> 年会費 2,000円 郵便振替口座 01210-2-6927
〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局
TEL. 086-422-8207(直通) FAX. 086-421-1991 E-メール kurakon@shigei.or.jp
開館：午前9時30分から午後5時まで (13:00から14:00は閉館)
休館日：月曜日 (祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館)、12月29日から1月3日